2017年

美術検定

1級記述式問題

■記述式問題は全３題です。それぞれの設問に従い、解答用紙に記述してください。

［短文記述問題］
以下の２つの事項について、それぞれ 140字以内で解答してください。

【１】美術館の機能である「保存」と「展示」の関係について、「劣化」「普及」「矛盾」の３語を使って説明してください。

【２】フィンセント・ファン・ゴッホが歌川広重から受けた影響について、「構図」と「模写」の２語を使って説明してください。

［長文記述問題］

【3】クロード・モネの「睡蓮と日本橋」について、〈資料 A〉の作品と現地写真とを比較し、〈資料 B〉〈資料 C〉の情報を適切に使って、一般の人に向けた解説文を、1000 字以内で書いてください。比較する現地写真は 1 点で構いません。
なお、テーマは「風景が絵画になると浮かび上がるもの」です。

また、解説文は、以下の論理構造を踏まえるようにしてください。

序論（導入・作者について記述すること）200 字を目安とする 本論（作品について記述すること）600 字を目安とする 結論（テーマに沿って総括すること）200 字を目安とする

〈資料 A〉

クロード・モネ（1840-1926）「睡蓮と日本橋」1899年
油彩・キャンヴァス　プリンストン大学美術館蔵

左右ともに／復元された「モネの庭」より「水の庭」の写真
ジヴェルニー　© Giverny Photo

〈資料Ｂ〉作家略歴と作品

クロード・モネ（1840〜1926）
パリに生まれ、幼少期にノルマンディー地方のル・アーヴルへ転居。1859年にパリへ出て画塾に通い、サロンへの出品を目指した。60年代末から作風は次第に後の印象主義傾向に向かう。74年にピサロやルノワールらと第１回印象派展を開催、その後、同展への参加を続けながら、サロンにも出品する。83年にジヴェルニーに移住。以降、「積みわら」「睡蓮」などの連作に取り組んだ。
左ページの作品は、モネが取り組んだ「睡蓮」の初期連作の１枚である。これらほぼ同じ構図の連作では、歌川広重の「名所江戸百景 亀戸天神境内」との関係が頻繁に言及されている。

〈資料Ｃ〉

彼の目は、睡蓮を描くときは物体として描いているが、反射した外の世界は映像でしかない。その場合、倒立して見えるその像が、じっさいには池の周囲に広がっている世界であることを視覚は認識している。さらに水奥をのぞくと、そこに深さの定まらない水草の世界が広がっているのを見る。目は複数の層を行き来し、同時にそれを描く。分析してしまえば、水奥、水面、映像の三つの層を描いているのだが、目は焦点を移し、手は同時に描く。したがって観る者も、睡蓮の花と葉に焦点を合わせているときと、水面下を見るときと、倒立した映像をみるときは、異なった視点をもち、しかしそれを総合的に感知する。…（略）…ひとつの画面内でさまざまな層において描かれたものを感知するこのやり方は、観念の世界で築き上げられた一点透視遠近法ではない、視覚の体験を見るものに提示している。

（馬淵明子「モネ―身体と感覚の発見」『大回顧展 モネ 印象派の巨匠、その遺産』図録、
セルジュ・ルモワンヌほか編集、読売新聞東京本社、2007年、p.32より引用）

モネのこの人気の原因のひとつは、フランス革命後の19世紀の市民社会が生み出した一種の「中産階級幻想」に基づいている。…（略）…当時は生活費もままならなかったモネ、普仏戦争による荒廃を経験したばかりのフランス、というように、現実は決して絵に描かれたようなものではなかった。それでも、南宋の山水画などに詩文と共に描き出される、日常を離れた磊落で放逸な桃源郷のイメージにも似て、人々の心の中にある理想化されながらも手を伸ばせば届きそうな近代生活の典型のひとつがモネの作品には実現されている。得意としたノルマンディーの海浜やセーヌ河畔などの水辺の風景、「ポプラ並木」や「睡蓮」の連作においても、都市生活者にとってはなんとも心地よく快適な自然が静かに提示されているのだ。

（髙橋明也「クロード・モネ―その輝ける軌跡。」『もっと知りたいモネ 生涯と作品』
東京美術、2010年、p2-3より抜粋、引用）

モネが後に従来の西洋絵画史では珍しい「連作」という形式を用いた背景にも、同じ主題で何枚も描かれる浮世絵や屏風図といった日本美術の影響が指摘されている。さらに、ジヴェルニーの庭にも、整然とした庭を好むフランスの美学とは異なる、日本の自然観が反映されている。モネ自身、「睡蓮」の源泉として「昔の日本人の美学」を挙げている。…（略）…モネは1870年代には浮世絵の収集を始めていたとされ、そのなかには、モネの作品と構図上の類似点が見られるものが多数ある…（略）…。現在確認されているだけで 292 点に及ぶモネの浮世絵コレクションの一部は、現在もジヴェルニーの食堂や寝室、階段などに飾られている。

（安井裕雄「モネと日本の美」『もっと知りたいモネ 生涯と作品』
東京美術、2010年、p36-37より抜粋、引用）

— 禁無断転載 —

© 2017 美術検定実行委員会